

2024 年頭方針

令和6（2024）年の仕事始め式が9日（火）、50周年記念館で開催されました。あいさつに立ち「チャレンジ」を呼び掛けた木下統晴理事長に、年頭方針を寄せていただきました。（NL編集部）

KUMAHOプライド持ち挑戦を

木下 統晴 理事長

「KUMAHOプライド」を本年の年頭方針に若い人が提案してくれました。本学の一人ひとりが役割を持ち、大学を良くするためにあると認識してもらいたいという考えです。教育・研究も多くの方が持ち場、立場でしっかりと取り組み、校内環境は協会の皆様のお力を借りて、大学活動は保たれます。アリーナでは、脱いだ靴が、いつもきっちりと揃えてあります。学生の皆さん一人ひとりも大学を守ってくれています。

1. ビジョン（保健医療系のリーディング大学となる）

2026年に基盤確立、2030年には更に進めた未来を考えています。また、ビジョン達成のために重要な財務基盤の確保もKUMAHOプライドで進めま

2. 社会の変化、現場主義、監査室の重要性

監査という言葉は厳しいと思うかもしれませんが、身近な問題をタイムリーに経営トップに伝え、解決に結びつける透明性の確保、スピードが重要だと考えています

3. 連携の輪作り、組織体制の整備、ワーキンググループの20の課題への取り組み

これらの取り組みの一つひとつに意味があります。大学の全ての人が、しっかりと役割を果たして、はじめて優れた医療人が育ちます。

4. 健康学園都市構想（仮称）

コミュニティの場、健康学園都市は必要です。熊本保健科学大学は、駅と直結し、敷地も広く、図書館、レストランなどインフラも整っています。

令和6年も面白がってチャレンジし、明るい未来を切り拓きましょう。



竹屋学長「教育の質で他大学と勝負」

2023年 仕事納め式

令和5（2023）年の仕事納め式が12月27日（水）、50周年記念館であり、竹屋元裕学長が教職員を前に「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられ、日常の活動が徐々にコロナ前に復帰する1年だった」と振り返りました。

第Ⅱ期中期目標・計画期間の1年目の総括として竹屋学長は「それなりの入学者数を確保できた」としながらも、18歳人口の減少に伴う大学間競争を念頭に、さらなる入試改革の必要性に言及。一方で、「教育の質で他大学と勝負すべき」として、各教員のレベルアップと教員間のさらなる連携強化を訴えました。

研究に関しては、二つの共同研究講座の充実ぶりを強調。「共同研究講座を巻き込んだ学内共同研究の発展も期待したい」と語りました。また、

大学院教育についても「大学院の強化は学部教育のレベルアップにも繋がる」として、今後への期待を口にしました。また、過去最多の参加者を集めた夏期オープンキャンパスや第2回の「からだのふしぎ探検」の盛況ぶりを振り返り「本学の存在をアピールできた」と話しました。

さらに竹屋学長は、鶴屋百貨店女子バスケットボール部を皮切りに相次いだ包括連携協定にも触れました。この中で、福岡脳神経外科病院との協定締結では、「次年度の脳卒中認定看護師課程の開講に際して定員の3倍近い数の受験者が応募している」と、その効果を報告。KMバイオロジクスとの協定については「これまで以上に人材交流や研究交流が発展する」と期待を寄せていました。

（NL編集部）



締結式後、記念撮影するKMバイオロジクスと本学関係者

共同研究、人的交流 さらに充実 KMバイオロジクスと包括連携協定

本学とKMバイオロジクス（本社・熊本市北区）が12月21日（木）、学術・技術交流や人的交流の推進を目指して包括連携協定を結びました。

生命科学・保健医療分野における学術と科学技術の高度化、地域の健康増進に寄与することを目的に、協定では共同研究や受託研究、研究者等の交流、学生の教育・研究など7項目での連携をうたっています。

同社は化血研から製薬事業を譲り受ける形で2018年に発足。本学とは動物治験検査の精度向上や品質管理の面で共同研究を行っています。今後は、共同研究だけでなく、研究者や経験豊富な社員の相互受け入れや学生の教育や進路先としても関係を強化していきます。

同社であった締結式には関係者計7人が出席。本学の木下統晴理事長と同社の永里敏秋社長が協定書に署名しました。これに先立ち、永里社長が「化血研から事業を承継した会社だけに、関係が深い大学との協定には不思議な気持ちがあります。

これを機に、強い絆を築き、共同研究、人的交流ができればと思います」とあいさつ。これを受け、木下理事長が「本学にとっても記念すべき協定となりました。人の健康と命を守るという目標のため、これからも長く一緒にやっていきたいと思えます」と述べました。（NL編集部）



協定書に署名する木下理事長（右）と永里社長



共通教育センター
山鹿 敏臣講師

ChatGPT 業務に使うなら…

図書館と数理・データサイエンス・AI教育専門部会、FD委員会共催のサイエンスカフェが12月26日（火）、キャンパステラスで開催され、共通教育センターの山鹿敏臣講師＝写真＝が「業務に使ってみよう！ ChatGPT」と題して有料版ChatGPTの業務利用について講演しました。

山鹿講師は、「私の部屋でランチを」でも紹介した文章作成やアイデアの提案などChatGPTの基本的な考え方や仕様などをおさらいした後、有料版を用いて文章要約やデータ分析などを実演しました。

講演の最後には、情報漏洩の危険性に言及し、「個人情報や研究中の未公開情報をアップロードすると他のChatGPTユーザーに利用される可能性もある」と注意を喚起。「（作成された文章内の）誤情報の確認が必要」とも話しました。（入試・広報課）



着実に20年 本学の歩み振り返る

「選ばれ続ける大学」へ歴代学長3氏が座談会

本学が銀杏短期大学から4年制の熊本保健科学大学に移行して以降の歴代学長3人による座談会が12月22日（金）、本学応接室であり、在任時の思い出や本学学生への期待などを語り合いました。4年制移行20年の節目をとらえた本学広報誌「ぎんきょう」の特集面企画で、第2代学長の小野友道氏、第3代の崎元達郎氏、4代目となる竹屋元裕・現学長が出席しました。

初代学長の岡嶋透氏（故人）の後を受け2007年から4期8年にわたって学長を務めた小野氏は、「ひたすら広告塔に徹した」と話しながら、円形の校舎を利用した太陽光発電で「日本一の大学」を目指したエピソードや、学務を中心とした事務体制の整備など草創期特有の苦労話を披露。崎元氏は18歳人口の減少、少子高齢化の進展という問題に直面し、「10年後も20年後も選ばれ続ける大学であるための教育改革を目指した」と語りました。また、アリーナ建設に伴う施設面の改修や熊本地震時の対応にも話は及びました。

一方、現在2期目の竹屋学長は、「本学の学長はやりがいのあるポスト」としながら、新型コロナウイルス感染拡大時の対応を振り返った後、昨

年度に開設した健康・スポーツ教育研究センターや、自治体、団体、企業などとの相次ぐ包括連携協定の狙いなどについて語りました。

座談会の詳細は、2月末に発行予定の「ぎんきょう」第49号に掲載されます。（NL編集部）



対談後、レストランで「ぎんきょう」表紙用の写真撮影に臨む、右から小野氏、竹屋学長、崎元氏

話してみよう韓国語・歌ってみようKPOP熊本大会

お見事！ 最優秀賞

ダンスサークル mimic メンバー4人

第14回話してみよう韓国語・歌ってみようKPOP熊本大会が12月2日（土）、熊本学園大学であり、本学ダンスサークルmimicに所属する4人が歌ってみようKPOP Cover Dance部門で最優秀賞を獲得しました。

4人は、戸高花暖さん、本山心優さん（以上、医学検査学科2年）、大森咲希さん（看護学科2年）、佐藤万友さん（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻2年）です。BLACKPINKの「How You Like That」に乗って見事なダンスを披露。出場13グループの中から最優秀賞に選ばれました。

この大会は、韓国語を学ぶ人やKPOPダンスの練習をしている人たちに発表の機会を提供し、韓国語を話す喜びを感じることでさらに学習に励んでもらおうと「話してみよう韓国語・歌ってみようKPOP熊本大会実行委員会」が開催。県内外の高校生や大学生、一般からのエントリーがありました。

リーダーの戸高さんは「試験の合間に大会があり、皆で予定を合わせて練習するのが大変でした」と、ちょっぴり苦労話も披露してくれました。（入試・広報課）



授賞式後、記念撮影をするmimicメンバー4人と申教授（中央）

■「学びの祭典」で本学PR

熊本県内の県立高校50校が日ごろの取り組みの成果を発表する「県立高校学びの祭典」が12月23日（土）益城町のグランメッセ熊本であり、本学も会場内にブースを設け、大学の紹介や取り組みをPRしました。

同祭典は、小・中学生やその保護者に向けて各校の魅力を知ってもらうのが狙い。本学は熊

本サイエンスコンソーシアム（事務局：第二高校）の連携大学として参加。ブースでのPR活動のほか、本学教員が高校生の発表にアドバイスをしました。

当日は、ポスター発表336件、ステージ発表13件などが行われ、各校の高校生たちが特色あふれる発表を披露していました。

（入試・広報課）